

company's outline

商号：株式会社アーク・ジオ・サポート

代表：代表取締役 池田 克彦

所在地：〒151-0071

東京都渋谷区本町 2-18-4

BRAXA 初台 1F

京王新線 初台駅 徒歩 10 分

TEL：03-5304-7899

URL: <https://www.a-gs.jp>

業務内容

水中探査、地層探査、探査機器類の
メンテナンスと FM サービス



顧問先インタビュー第4弾は渋谷の株式会社アーク・ジオ・サポート様です。

海洋や河川・湾など水中計測、底質・地形・地質調査と分析をしている会社です。

本日は、創立20周年目を迎える池田社長にお話を伺いました。



中田) 水中探査という特殊な事業について教えてもらえますか？

池田社長) 創業当時の民間企業の技術はヨーロッパに比べて遅れておりましたが、ここ数年の業界の技術競争はとても激しいものになっています。私どもは海も河川も取扱っており、創業からのノウハウは他には真似ができないものだと思っております。今年度は光の三原色のひとつのグリーンだけを利用して海や川の水深を測るというドローンを国内先駆けて購入しました。今までは船をだして、ポートを出して水深や海底の様子を調査していましたが、昼夜問わずに天候さえ良ければ、飛行ルートをプログラミングしたドローンを飛ばせますので、かなり大きな目玉になると思っています。その他にも元大学教授を招いて研究もしています。今までは考えられなかったことができるようになってきた時代です。開発スピードもかなり速くなっています。

中田) 御社の開発は社長が中心でしょうか？

池田社長) 創業から私は絶えず考えていますね。こんなことができないか、この技術が使って新しい探査機を製作できないか。現在は社員や大学とも連携して相模原のステージングセンターで開発業務をしています。

また技術をリスト化して、他の方にも利用できるサービスも確立しました。私もできれば相模原で研究に没頭したいと思うときもありますよ。



中田) 特許も取られていますね。

池田社長) そうですね。海底の堆積層の情報を音響により収集する技術など、水中探査のプロフェッショナルとして、新たらしい“かたち”を提案できるよう研究しています。

探査の内容によって、機材を組み上

げていますので、ほとんどはセミナーで機材持込みをして探査作業をしていますね。



中田) 海底探査も多いと思います。水はきれいなものでもありますが、怖いものでもあると思います。自然の怖さを実感したことはありますか？

池田社長) 小学生のころ、河川の氾濫を間近に見ることがありました。それはとても怖いもので、あつという間に川の水が2メートルほどの高さで襲ってきました。当時は土嚢のような堤防でしたので現在のものより脆く、氾濫した土地には家畜が流されていました。静かな川面もありますが、河川のほうも怖いと今でも感じます。

中田) 震災のときには大変だったのではないのでしょうか。

池田社長) そうですね、救助を始めるにもまずはその土地に着かなければなりません。陸地では道路崩壊などで通行できないところがたくさんありました。その点、海からのアプローチは早いと思います。地震で海底は変わってしまっていますので、海底を見極めて港までの水路を啓発し、船が着けるようになれば物資も大量に運べます。それからが救助の始まりでした。

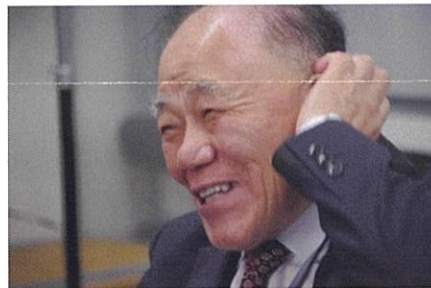
中田) その他にも戦争で海底に沈んでしまった戦艦の調査もされていらっしゃると思いますね？

池田社長) そうですね。戦争の爪痕として、軍艦・輸送船捜索と一緒に

海底に眠っている方々の情報調査をしています。

ソロモン・ガタルカナル島やトラック島の探索をしましたね。これからも協力をしていきたいと思っています。それがわが社の貢献でもあると思っています。

ご遺族としては何かしらの手がかりが欲しいものだと思います。戦争から随分と年月は経っていますが、ご遺族の思いは消えることないのかと思って捜索協力をしています。



中田) 真似のできない素晴らしい取り組みだと思います。社内向けには、どのような取り組みをされていますか？

池田社長) 社員に向けたメッセージを給与明細書に入れています。

A4版1枚で「世界の動き」「国内の動き」「社内の動き」を4年ほど続けています。

このメッセージは社員に向けてでもありますが、まずは自分の勉強でもあると思っています。絶えず考え、それを整理するのにとても効果的です。また勉強を続けることで、レベルの高いお客様との話にもきちんとついていけますので信頼関係にもつながっていると思いますね。

中田) 毎月発行で、4年間というところかなり大変ではありますね？

池田社長) そうですね。もう給料日が来るのかと、正直しんどいですね。最近、始めたころのメッセージをみましたけれども、だんだんと文章も良くなっていますね。知らず知

らずにブラッシュアップされているようです。あとは熱い思いを文章にしたつもりが、1日後に読み返したら何を伝えたいのか文字になっていないこともありますね。頭を冷やして、読み返すことも大事で、このメッセージを読んだ社員が世界のこと、日本のこと、現在の社内のことを知って、じゃあ、こういう取り組みをしてみようという社員が出てくれると嬉しいですね。

中田) 礎とのお付き合いはいかがでしょうか。

池田社長) 小町さんとは、創業前にキャリアコンサルの講習会で一緒に勉強しましたよね。

あの頃は会社を立ち上げようか悩んでいた時期でもありましたね。その後企画をして、資材を購入して、会社を立ち上げることにしましたが、社長業を意識したのはここ数年ですね。これからも現代の開発スピードに負けないよう、新しい取り組みをしていくつもりです。



中田) 本日は国内外と飛び回られています池田社長にお時間をいただき、ありがとうございました。

私たちの生活が安全・快適であるのは御社の調査によって、整備されたからだと思います。

ふるさと香川・高松の観光大使もされていらっしゃる社長は、新米ができてみると顧客と社員にふるまわれるそうです。お酒もお好きな池田社長と皆さまのご活躍をこれからも楽しみにしております。